

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。  
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を  
込めて撮影している。



石垣島出身の西里洋樹さんと初めて出会ったのは、彼の職場の木工所取材した2022年の夏頃だった。

木工所では、ある部所の製作リーダーとして仕事をこなす西里さん。小さい頃から祖父が木工所で働く姿を見て育ち、自分もいつか、祖父の技術や想いを受け継ぎ、木工所で働きたいと思っていたそうだ。丁寧に落ち着いた立居振舞いと物腰の柔らかさが印象的で、あまり自分をさらけ出すようなところがなく、実際のところどんな人なのかと気になった。

今回撮影を依頼した際に、どこで撮影したいですかと尋ねると、「運動公園のテニスコートが良い」という意外な返事が返ってきた。

西里さんは、兄や父親の影響で中学生の頃からテニスを始め、部活動でもテニス部に所属したり、大人になってからもテニスクラブや学校の部活のコーチを務めたりするなど、仕事以外の時間はほぼ全てをテニスに捧げる人生を送っているのだと話してくれた。今年からは、八重山ソフトテニス連盟の理事長を務めている。

「自分の親や兄弟、結婚相手もその家族もみんなテニスが好きで、集まればテニスをします。もちろん自分の子どもたちもテニスをしています。個人プレイもチームプレイも味わえるところがテニスの魅力の1つだと思います。子どもたちには、まずは挨拶や礼儀、コミュニケーションの大切さをテニスを通して学んでもらいたいです。最近では、自分が良い結果を出したいという思いから、子どもたちが良い結果を出せるようにサポートしたいという気持ちに変わってきました」と話す西里さん。

西里さんとコートを前に話していると、まるで目の前の緑色のコートが私たちの足下に広がり、またその先のずっと先までパーンと広がっていくような、不思議で清々しい感覚を覚えた。西里さんが言う「いつも頭の中はテニスのことばかりです」という世界が一瞬見えた気がした。

水野暁子 みずのあきこ  
1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

- 島人へのインタビューをまとめて紹介しているYouTubeチャンネル「八重山ライブラリー」も。
- フォトエッセイ本『八重山、光と風の葉をはさんで』。発注は、右QRコードホームページのContactから。



Akiko Mizuno Photography



八重山ライブラリー